

学校評価書

学校法人第三静岡学園

静岡学園なごみ高等学校 学校評価委員

令和7年3月27日（木）3時

評価対象	令和6年度の自己評価	自己評価（ABCD）	令和7年度目標・改善策	意見
学力養成	入試直前まで指導していたことは、感謝に値する。基礎学力の無い生徒の指導を考えなければならない。	B	生徒が質問に来やすい職員室を目指したい。 質問タイムの活用。映像による授業の活用、祝日、土曜日、日曜日も校舎が利用できるようする。 入試直前までの指導は難関大学合格に寄与。	使用教科書はレベルアップしたらどうか。
生徒指導 心の育み	養護職員、スクールカウンセラー、教員の協力で果たされてきたと思う。疾患を抱えている生徒の教育は今一つ。	B	疾患を抱えている生徒に細心な教育をお願いしたい。保護者との密接な連絡を行う。事務職も教育に参加。養護教諭、スクールカウンセラーの指導を仰ぐ。 心身ともに健康な生徒の育成のために、運動施設の開放。	問題を抱えていない生徒には、授業の必要性を教えなければならない。 祝日、土曜日でも学校に来て学習する生徒がいる。
広報・募集	県外に本校を置く学習センターの生徒募集、入学者の確定は10月から始まる。本校は遅すぎる	B	慎重に行っていかなければならない。学校における生徒の希望者の増加は、進路先。教育内容の充実した学校づくりが第一。 令和7年5月7日から始めるフリースクールの生徒の学力を養成するのが一番良い。将来的には「高等学校卒業認定試験コース」をつくるのも一案。	パンフレットのイメージを変えたい。事務職員も説明会に参加したらどうか。令和6年度は、転入生が20名を超えた。高校との連絡が大切。
学校設備	設備については広く職員会議で要望を聞き予算編成。従来は最低限の学校設備であった。	B	「令和6年度自己評価」の改善に取り組むと同時に、TV等、視聴覚施設を利用できるようにしていただきたい。また運動設備を徐々に充実させたい。	令和8年度、現在協議中の中学校及び今後生徒数が増加するに当たってどんなものが必要か、例えば4階屋上の利用、地下空間、静岡焼津信用金庫の広大なグラウンドを借り、照明をつけ、球技大会、体育大会を開いたらどうか。
総括・結論	学校運営は理事長（校長）が中心で行ってきたが、これを改善したい。	B	事務組織においては組織規程をつくり、総務課、教務課、企画課、5月からのフリースクール担当者及び経理係をつくる。 教員にあっては、職員間で教育内容、設備及び教科書のレベルを話し合える職員会議の活用を考える。	職員会議において、職員室と事務室が離れているので連絡体制に考慮する余地がある。